

厚生年金事業振興団における厚生年金病院

- 1 国からの委託を受け、7つの厚生年金病院(約2千8百床)のほか、2つの看護専門学校を経営
- 2 厚生年金病院は、当初、整形外科療養の実施機関として設置され、現在は高度先進医療を提供できる病床数500以上の3総合病院と、整形外科やリハビリテーションを主体とした4病院がある。
- 3 職員数 約3千6百人

※平成19年12月末現在

厚生年金病院の経営状況推移

	19年度 (見込)	18年度	17年度	16年度	15年度
医業収益	47,623	45,002	46,090	48,122	45,778
入院収入	35,819	33,406	34,196	33,114	32,355
外来収入	9,901	9,766	10,105	9,692	9,498
医業費用	45,037	42,971	43,686	46,519	43,587
経常利益	2,110	1,650	1,802	848	1,679

(単位:百万円)

4疾病5事業の取り組み状況

平成18年度退院患者数 34, 285名(総合3病院)

◇4疾病

疾病名	ICD10	退院患者数
がん	C00~C97	7, 871
糖尿病	E10~E14	389
急性心筋梗塞	I21	186
脳卒中		702
くも膜下出血	I60	55
脳出血	I61、I62	246
脳梗塞	I63	342
一過性脳虚血発作	G45	59

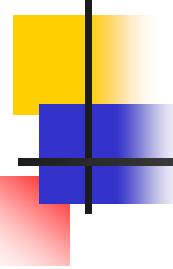
(総合3病院の病床数 1, 660床)

4疾病

脳卒中	救急対応(ICU、24時間) 地域連携パス リハビリテーション	3病院(東京、大阪、九州) 2病院(大阪、湯布院) 全7病院
がん	地域がん診療連携拠点病院 緩和ケア病棟	2病院(東京、九州) 2病院(東京、九州)
急性心筋梗塞	救急対応(24時間) カテーテル治療(インターベンション) 心臓リハビリテーション	3病院(東京、大阪、九州) 3病院(東京、大阪、九州) 4病院(東京、大阪、九州、湯布院)
糖尿病	糖尿病教室 人工透析	全7病院 3病院(東京、大阪、九州)

5事業

小児(救急)医療	小児救急医療協力病院	2病院(大阪、九州)
救急医療	救急告示病院	5病院(東京、大阪、九州、登別、玉造)
	病院群輪番制	1病院(湯布院)
災害時医療	災害拠点病院	1病院(九州)
	災害時支援協力病院等	5病院(東京、大阪、登別、湯河原、玉造)
周産期医療	分娩数(18年度1,225件)	3病院(東京、大阪、九州)
へき地医療	へき地医療拠点病院	1病院(九州)



地域医療

地域医療支援病院		2病院(大阪、九州)
臨床研修指定病院(医科)	単独型	2病院(東京、大阪)
"	管理型・協力型	1病院(九州)
"	協力型	1病院(湯布院)
臨床研修指定病院(歯科)	協力型	2病院(大阪、玉造)
県リハビリテーション支援センター		1病院(湯布院)
地域リハビリテーション広域支援センター		2病院(登別、玉造)

医師、看護師の確保対策

◇ 応援勤務体制の確立

本団のスケールメリットを活かし、医師及び看護師の確保が困難な厚生年金病院に対して、他の厚生年金病院から派遣することにより、厚生年金病院間の連携体制を確立するとともに、地域医療の確保に努めている。

◇ 厚生年金病院臨床研修看護師制度

新卒の看護師等を対象に、一定期間病院に勤務して研修することにより、厚生年金病院の看護師として質の高い看護の提供ができる能力を育成し、もって看護師の確保及び離職防止を図る観点から「厚生年金病院臨床研修看護師制度」を定め実施している。

厚生年金医療フォーラム

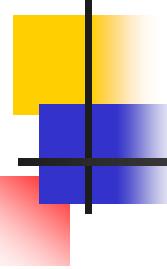
- ◇ 厚生年金病院の各職種が参加し、医療の質及び職員の資質の向上を図り、併せて地域社会の医療・福祉に寄与することを目的に、平成8年より毎年開催している。
- ◇ 開催状況

年 度	メインテーマ
19年度(第12回)	働きやすい職場を目指して
18年度(第11回)	病院機能の更なる向上を目指して
17年度(第10回)	地域が必要とする厚生年金病院を目指して
16年度(第 9回)	次世代を担う人材の確保・育成へ向けて

介護保険事業への取り組み

◇ 実施事業

訪問リハ	4病院(登別、湯河原、玉造、湯布院)
訪問看護	4病院(登別、湯河原、玉造、湯布院)
居宅療養管理指導	2病院(登別、湯河原)
居宅介護支援	2病院(登別、湯布院)
通所リハ	4病院(登別、湯河原、玉造、湯布院)
短期入所療養介護	1病院(登別)
地域包括支援センター	1病院(登別)



要望事項

- ◇ 新たな経営形態の早期決定
- ◇ 病院機能を維持するための自主整備
- ◇ 地域にとって必要な公的機能を維持する病院